

## 使用料の概略検討

### 1. 使用料値上げによる全体収支の改善状況の検証

本市下水道事業については、現在のところ一般会計から繰入金による財源補填が認められていることより、単年度での現金不足は発生していないが、現金を伴わない減価償却費及び長期前受金戻入を加味した全体収支（収益的収支+資本的収支）は単年度でマイナスとなっており、この状況が続くといずれ資金が枯渇してしまうと考えられる。

そこで、使用料の値上げによる全体収支の改善状況について検証を行う。

#### (1) 検証ケースの設定

検証ケースは以下の通りとする。

支出計画及び使用料収入以外の収入計画は固定し、使用料収入のみ単価設定に応じて変化させていくものとした。

なお、使用料の値上げは令和4年度からを想定した。

表 1(1) 検証ケース

ケース	内容
ケース1	現況単価（基本ケース）
ケース2	現況単価×1.1（10%アップ）
ケース3	現況単価×1.2（20%アップ）
ケース4	現況単価×1.4（40%アップ）
ケース5	現況単価×1.6（60%アップ）
ケース6	現況単価×1.8（80%アップ）
ケース7	現況単価×2.0（100%アップ）

(2) 検証結果

検証結果を以下に示す。

支出計画について見直しを行わないまま、単年度収支をプラスに転じさせるには、使用料を約2倍にまで引き上げる必要があることが分かった。

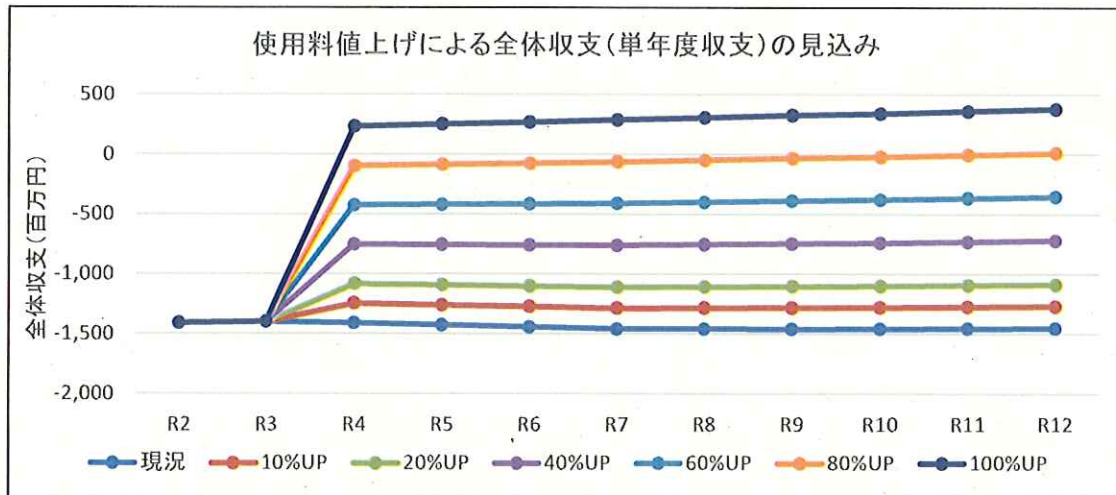


図 1(1) 使用料値上げによる全体収支（単年度収支）の見込み

表 1(2) 使用料値上げによる全体収支（単年度収支）の見込み

ケース	(百万円)										
	予算	第6期					第7期				
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
現況	-1,405	-1,394	-1,405	-1,422	-1,438	-1,455	-1,455	-1,456	-1,454	-1,451	-1,449
10%UP	-1,405	-1,394	-1,241	-1,254	-1,267	-1,280	-1,279	-1,278	-1,274	-1,270	-1,266
20%UP	-1,405	-1,394	-1,077	-1,087	-1,096	-1,106	-1,103	-1,099	-1,095	-1,088	-1,083
40%UP	-1,405	-1,394	-749	-752	-755	-757	-750	-742	-736	-726	-717
60%UP	-1,405	-1,394	-421	-416	-413	-407	-398	-386	-376	-363	-351
80%UP	-1,405	-1,394	-93	-81	-72	-58	-45	-29	-17	-1	15
100%UP	-1,405	-1,394	235	254	270	291	307	328	342	362	381

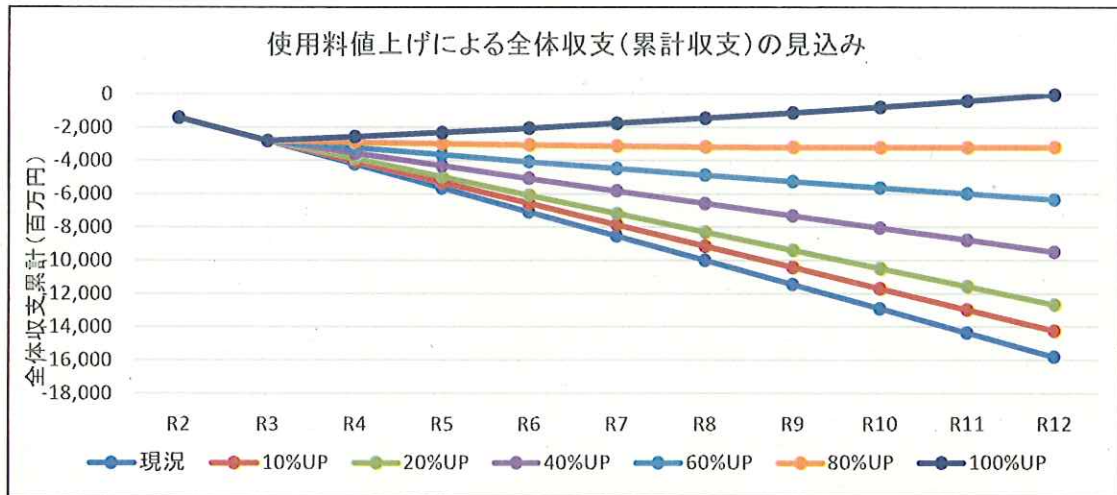


図 1(2) 使用料値上げによる全体収支（累計収支）の見込み

表 1(3) 使用料値上げによる全体収支（累計収支）の見込み

ケース	予算	第6期					第7期					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
現況	-1,405	-2,799	-4,204	-5,626	-7,064	-8,519	-9,974	-11,430	-12,884	-14,335	-15,784	
10%UP	-1,405	-2,799	-4,040	-5,294	-6,562	-7,842	-9,121	-10,398	-11,673	-12,943	-14,209	
20%UP	-1,405	-2,799	-3,876	-4,963	-6,059	-7,165	-8,268	-9,367	-10,462	-11,550	-12,633	
40%UP	-1,405	-2,799	-3,548	-4,300	-5,054	-5,811	-6,561	-7,304	-8,039	-8,765	-9,482	
60%UP	-1,405	-2,799	-3,220	-3,636	-4,050	-4,457	-4,855	-5,240	-5,617	-5,980	-6,331	
80%UP	-1,405	-2,799	-2,892	-2,973	-3,045	-3,103	-3,148	-3,177	-3,194	-3,195	-3,180	
100%UP	-1,405	-2,799	-2,564	-2,310	-2,040	-1,749	-1,442	-1,114	-772	-410	-29	

(百万円)